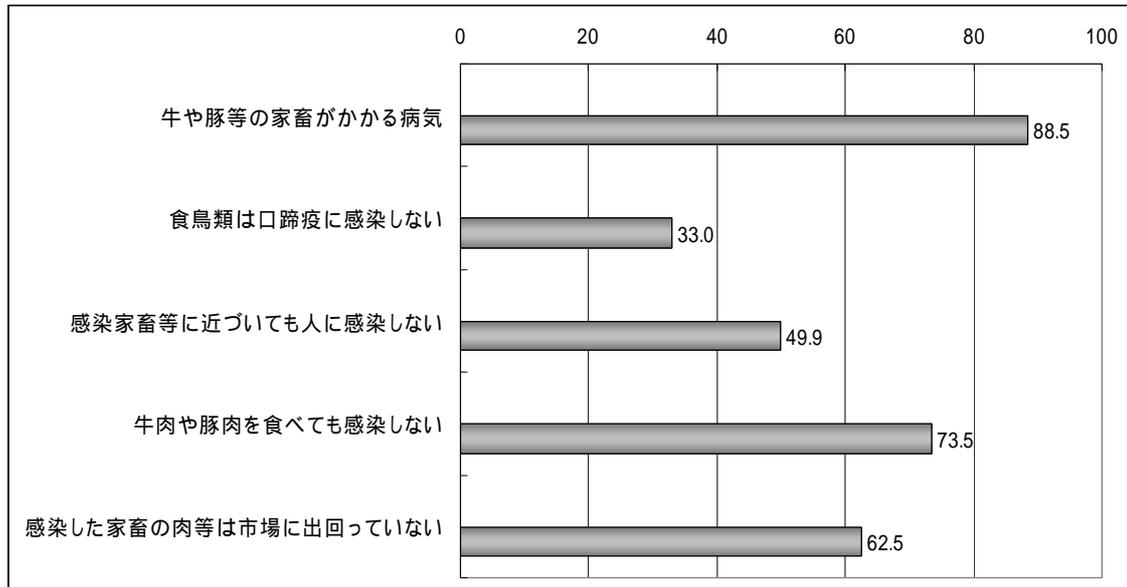


第 章 口蹄疫の分析

1 口蹄疫についての理解度

図表 -1 口蹄疫について知っていること (単位: %)

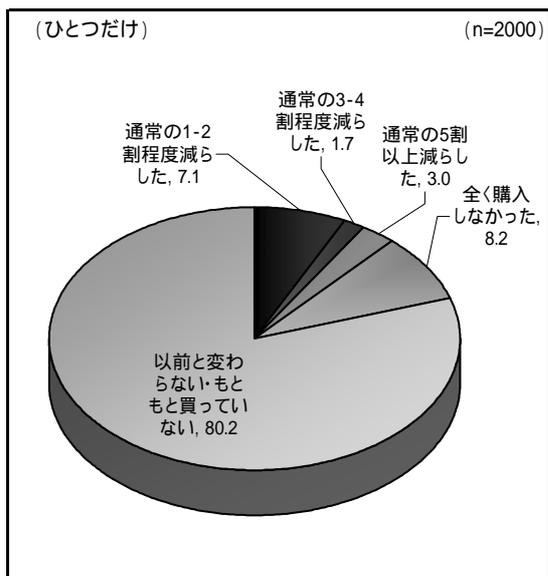


平成22年の春から夏にかけて、宮崎県南部を中心に広まった口蹄疫について、その伝染病としての理解度を尋ねたところ、「牛や豚等の家畜がかかる病気」を知っている人が88.5%と最も多かった。次いで「牛肉や豚肉を食べても感染しない」が73.5%、「感染した家畜の肉等は市場に出回っていない」が62.5%。「感染家畜等に近づいても人に感染しない」は約5割、「食鳥類は口蹄疫に感染しない」は33.0%だった。

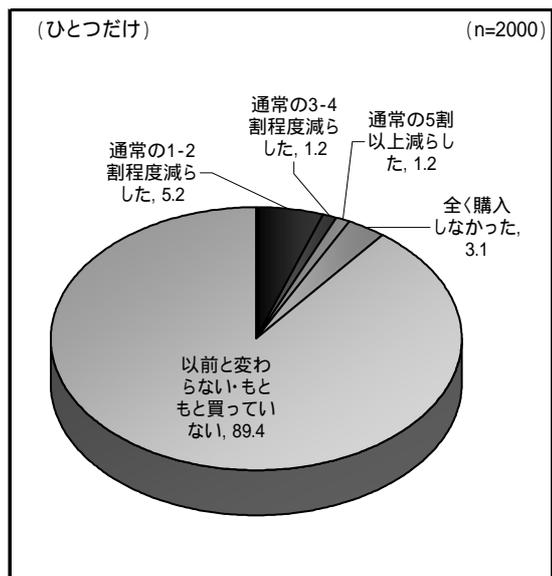
2 口蹄疫発生後の食肉の購入状況の変化

1. 牛肉・豚肉の購入状況の変化

図表 - 2 口蹄疫発生後の牛肉購入状況の変化 (単位: %)



図表 - 3 口蹄疫発生後の豚肉購入状況の変化 (単位: %)



牛肉では、「以前と変わらないもともと買っていない」が80.2%。「全く購入しなかった」が8.2%だった。減らした割合は「通常の1-2割程度減らした」が最も多く7.1%。「5割以上減らした」が3.0%、「3-4割程度減らした」が1.7%だった。

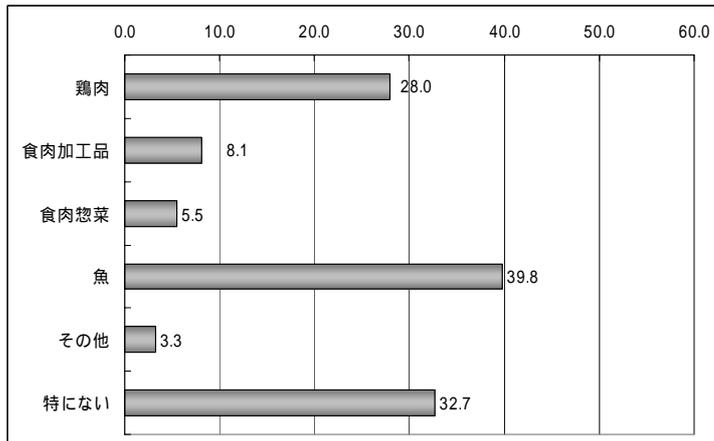
豚肉では、「以前と変わらないもともと買っていない」が89.4%。「全く購入しなかった」が3.1%だった。減らした割合は「通常の1-2割程度減らした」が最も多く5.2%。「3-4割程度減らした」と「5割以上減らした」がいずれも1.2%だった。

2 口蹄疫発生後の食肉の購入状況の変化

2. 牛肉・豚肉の代わりに購入を増やした食品

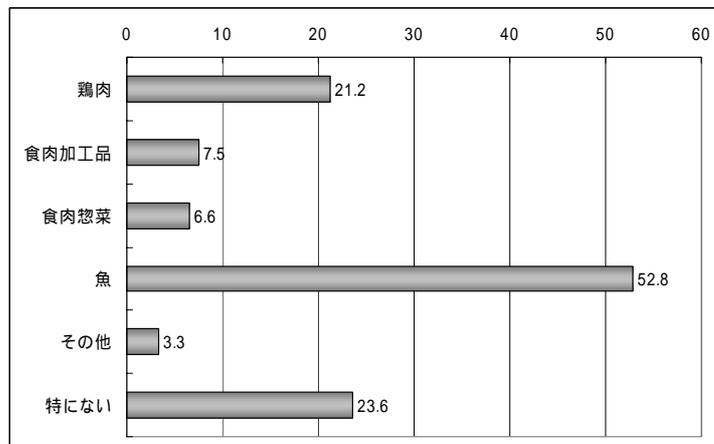
図表 - 4 牛肉の代わりに購入を増やしたものの

(単位: %)



図表 - 5 豚肉の代わりに購入を増やしたものの

(単位: %)



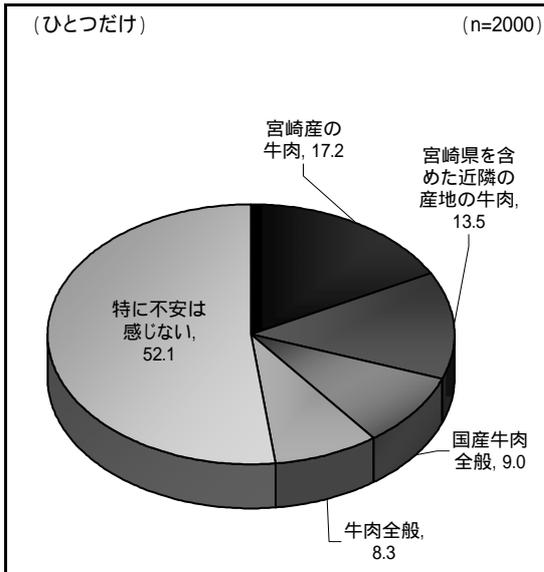
牛肉では、代わりに購入を増やした食品で最も多かったのは「魚」の39.8%。「鶏肉」が28.0%で続く。「特にない」は32.7%だった。

豚肉では、代わりに購入を増やした食品で最も多かったのは「魚」の52.8%。「鶏肉」が21.2%で続く。「特にない」は23.6%だった。

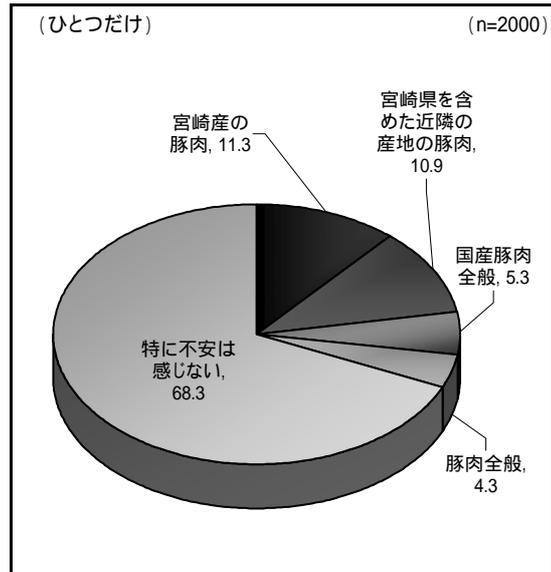
2 口蹄疫発生後の食肉の購入状況の変化

3. 不安を感じた牛肉・豚肉の種類

図表 -6 口蹄疫発生後に不安を感じた牛肉の種類 (単位: %)



図表 -7 口蹄疫発生後に不安を感じた豚肉の種類 (単位: %)



牛肉では、不安を感じた種類は「宮崎産の牛肉」が最も多く17.2%。「宮崎県を含めた近隣の産地の牛肉」が13.5%、「国産牛肉全般」が9.0%、「牛肉全般」が8.3%だった。「特に不安は感じない」は52.1%だった。

豚肉では、不安を感じた種類は「宮崎産の豚肉」が最も多く11.3%。「宮崎県を含めた近隣の産地の豚肉」が10.9%、「国産豚肉全般」が5.3%、「豚肉全般」が4.3%だった。「特に不安は感じない」は68.3%だった。